# 高知県幡多地域観光ビジョン

黒潮文化に出会うまち

人に出会い・人が育つ観光を目指して

高知県商工労働部観光振興課

# はじめに（ビジョン策定の趣旨）

**－住民主体による観光ビジョンづくり－**
**（地域から地域へ、これからの観光の取組みのメッセージ）**

**幡多観光の活性化のためには、観光関係者と地域住民が一体となって取り組むことが大切です。そのために幡多地域が目指す観光の方向「ビジョン」についても、話し合いを通じて共通認識を深め、合意形成を図る必要があります。**

**また、魅力ある観光地づくりは地域づくりそのものです。地域に住む人、一人ひとりが観光地づくり（地域づくり）の担い手であるという意識をもち、「どのような観光地づくりを進めたいのか」また「そのためには何をすればよいのか」といったテーマをめぐって、お互いに話し合い、理解や意識を高め合うことが重要です。**

**実際、地域の観光の活性化に向かって、魅力ある観光地づくりを進めるのはそこに住む人です。本ビジョンでは、このような認識のもと、地域全体の運動として観光地づくりの機運を盛り上げるために、地域の代表者から成る「幡多地域観光ビジョン検討委員会」を組織し、観光振興の共通目標や今後の取組みの方向性を話し合いました。**

**この「幡多地域観光ビジョン」は、検討委員会の結果を踏まえてとりまとめられた、地域から地域への、これからの観光の取組みのメッセージです。**

＜幡多地域観光ビジョンの構成（目次）＞


1. 幡多観光の現状と展望　（p2～）
（現在の取組みと問題点・課題、地域の良さと活かすべき資源）
2. 幡多観光の基本方針　（p7～）
（幡多地域の観光イメージ、大切にしたい考え方、将来目標）
3. 幡多観光アクションプラン　（p14～）
（将来目標に基づいた取組みの方向・ポイント）
資料編：ビジョンの策定経過　（p22～）

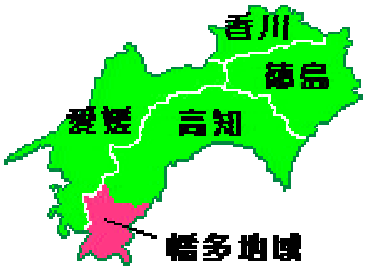
# １．幡多観光の現状と展望

## ⑴幡多地域の現在の取組みと抱えている問題点・課題

### ①幡多地域全体の取組み：環境学習型修学旅行の推進

**◇高知県観光の柱である幡多地域**

**幡多地域は高知県の西南に位置しており、８市町村（佐賀町、大方町、西土佐村、中村市、宿毛市、大月町、三原村、土佐清水市）から構成されています。足摺岬や四万十川、ホエールウォッチングなど、観光資源に恵まれており、幡多地域の観光は高知県観光の柱の一つとなっています。**




**◇環境学習型修学旅行の先進地**

**幡多地域全体の取組みとしては、修学旅行の誘致があげられます。平成５年ごろから修学旅行生が訪れるようになり、広域的な観光誘致を進める必要に迫られたことから、幡多地域として広域的に取り組めるよう、幡多広域観光推進連絡協議会（以下「幡多広域」という。）を設置し、これまで、地域内の観光メニューの創出や修学旅行の誘致の努力を行ってきました。**

**平成５年度から始まった修学旅行は年々増加しています。この要因としては、誘致の努力だけでなく、修学旅行の目的が自然環境や地域の生活文化を体験できることを前提とした環境学習型に変わりつつあることや、この変化に対応できる観光資源を持った地域が幡多地域であったことなどが考えられます。**

現在の取組み］
・修学旅行向けの広域観光ルートの整備
・修学旅行の誘致（大手旅行代理店や各学校への直接的な働きかけ）
・各市町村や受入れ施設へのフィードバック

**◇一般の観光客誘致が課題**

**幡多地域では、これまで修学旅行の誘致については、広域として取り組んできましたが、その取組みは一般の観光客の誘致までには至っていません。今後は、広域の観光窓口、観光客を誘致する主体を一本化し、広域的なＰＲ活動や情報発信などが求められています。**

［抱えている問題点・課題］
・広域的な観光PR活動、総合的なホームページサイトの整備
・観光窓口、観光客を誘致する主体の一本化
・幡多広域と市町村観光協会との連携が不十分

## ②各市町村の取組み：地域資源を活かしたメニューづくり

**◇地域資源を活かした様々な取組み**

**各市町村の取組みとしては、佐賀町では、平成 12 年ごろからカツオのタタキづくり体験及び塩づくり体験を行っており、現在では一度に 100 人以上の修学旅行を受け入れる体制が整っています。また、大方町や西土佐村では、グリーン・ツーリズムの推進など地元住民が主体となった交流事業を進めています。中村市では、四万十川を最大限に活かしながら、長期滞在の条件整備を整えようとその取組みを進めています。そのほか、宿毛市では四季の写真展やマウンテンバイクレース、大月町では民宿による修学旅行の受入れ、土佐清水市では地質ガイドや遍路道の整備など様々な新しい取組みが行われています。**

［現在の取組み］
・カツオのタタキづくり体験・塩づくり体験（佐賀町）
・廃校になった小学校を活用した交流拠点の整備（大方町）
・地域と連携したグリーン・ツーリズムの推進（西土佐村）
・カヌーなど長期滞在型の川のリゾート地への取組み（中村市）
・四季を通じた写真展、沖の島でのマウンテンバイクレースの開催（宿毛市）
・柏島の民宿による修学旅行の受け入れ（大月町）
・竜串の地質ガイド、足摺遍路古道の整備（土佐清水市）

**◇冬季対策、通過型、自然環境の悪化が問題**

**その一方で、各市町村とも問題点・課題を抱えています。特に各市町村とも共通していることとして、海や川を活かしたアウトドア型の観光メニューが多く、オフシーズン対策（冬季対策）や雨天対策が課題となっています。**

**また、通過型観光といった問題は、幡多地域全体の問題であり、四国全体での観光客の行動をみると、幡多地域は松山市、高知市に挟まれた形で通過型の傾向があります。観光ルートでいえば、フェリーの再開を受けて、航路の確保やフェリーの認知度の向上や利活用が今後の課題となっています。**

**さらに、幡多地域の観光資源の多くは、豊かで美しい自然環境にあるため、川の汚れや珊瑚の被害など、自然環境の悪化は地域の重大な問題となっています。**

［抱えている問題点・課題］

・ツアーで来ても泊まるところがない。通過型の観光になっている。（佐賀町）

・夏に観光客が集中している（オフシーズン対策）。（西土佐村）

・施設型観光の低迷、四万十川の汚れ（中村市）

・雨の日のメニューの用意。珊瑚の被害。土日に魚がない。（土佐清水市）

・観光ルートとしてのフェリー航路の認知度の向上や利活用（宿毛市）

**検討委員会での話し合いの様子**

## （２）幡多地域の良さ（魅力）と活かすべき資源

**これからの幡多地域の観光振興を考える上で、現在の取組みや抱えている問題点・課題を把握し、それを解決していく方法も重要ですが、地域の持っている良さや魅力、強みといったプラスの面をいかに引き出し、観光に活かすかといった視点も重要です。そのため、ここでは、検討委員会で話し合われた幡多地域の良さや魅力、強みといった地域のプラス面を整理しています。**

### 幡多の良さその１：開発が遅れたがゆえに残った豊かな自然

**まず１つに、幡多地域は開発が遅れたがゆえに残った豊かな自然があります。これは大きな財産といえます。今や全国ブランドとなった四万十川をはじめ、カヌーやホエールウォッチングなど自然を活かした体験メニューの豊富さは全国屈指の地域となっています。また、幡多地域は山・川・海と自然がすべてそろっており、自然の生態系や循環の仕組みを訪れた人に伝えることができる環境学習型の観光ができる地域です。**

| 地域の良さ、魅力、強み | | 活かすべき資源・アイディア |
|---|---|---|
| ・全国ブランドの四万十川<br>・自然体験メニューの豊富さ<br>・自然がすばらしい、きれいな海<br>・野鳥が多い | ⇨ | ・川遊び<br>・海に映る月の見学<br>・釣り、貝採り<br>・野生動物ウォッチング |

### 幡多の良さその２：自然に育まれてきた産業と暮らし

**２つ目に、豊かな自然に育まれてきた産業や暮らし（生活文化）があります。特に幡多地域は、山・川・海といった恵まれた自然環境の中で、第一次産業が地域の暮らしや文化に深く関わっています。カツオ船の出港や川漁の風景など、日本でも数少ない暮らしの風景に出会えるところです。また、一次産業を中心とする産業活動や地域の人の営みの中で、伝統的な祭りや行事、郷土食、石垣の景観など幡多独自の生活文化が残っています。**

| 地域の良さ、魅力、強み | | 活かすべき資源・アイディア |
|---|---|---|
| ・カツオ船の出港風景<br>・郷土料理<br>・川漁 | ⇨ | ・漁業や農業など本物を体験<br>・自分で食べ物をとって調理<br>・どぶろくづくり<br>・ワーキングホリデーの実施 |

## 幡多の良さその３：生活・文化を築きあげてきた人

**最後、３つ目に、豊かな自然に育まれてきた人、また、時には自然と闘いながら生活や文化を築きあげてきた人がいます。一般的に、土佐の人間は、いごっそう・はちきんといったイメージが強いですが、幡多の人は、陽気で人なつっこく、誰にでも気軽に話しができる人が多いように思われます。飾りっ気がなく、すぐにうちとける人柄で、この地を訪れた人をあたたかく迎えています。**

| 地域の良さ、魅力、強み | | 活かすべき資源・アイディア |
|---|---|---|
| ・何も飾らない人<br>・すぐにうちとける人柄<br>・偉人や有名な人を多く輩出 | ⇨ | ・自然のままでお客と接する<br>・遍路道のガイド 案内） |

**私たち、幡多住民は、地域にとって誇りとなる良き資源や文化をあらためて見つめ直し、その良さを再評価する必要があります。そして、その良さを大切に守りながら、訪れた人に良さを伝える、またはおすそ分けしていくことで、無理のない自然で持続可能な観光地づくりを行うことができると思います。**

**みんなで、幡多の良さを再認識し、訪れた人におすそ分けしよう！**

⇩

**無理のない自然で持続可能な観光地づくり**

# ２．幡多観光の基本方針

## （１）幡多地域の観光とは（これからの観光）

「幡多地域とはどんなところですか」「幡多ではどんな観光ができますか」、この来訪者からの質問に対して、「自然が豊か」「食べ物がおいしい」「人がおもしろい」など、いろいろと言えるとは思いますが、地域の特徴や個性を一言で表現することは難しいと思います。

地域間競争が激しい今、地域にどんなに素晴らしい資源や特徴（個性）があっても、地元の人がその個性を明確に意識し、これを強いメッセージとして情報発信しなければ､外部からは地域のイメージが形成されません。

その意味から、情報発信する場合、地域共通のキャッチフレーズを設定し、その中に地域のメッセージを強く盛り込むことが必要だと思います。

今回のビジョン策定では、そのことを強く意識しながら地域（地域観光）の個性について話し合いました。以下では、その経緯と結論である地域の個性（地域からのメッセージ）をとりまとめています。

質問①　幡多はどんなところか？　地域のイメージ）

**幡多とは「黒潮文化に出会うまち」**
**～様々な感動に出会い感受性が豊かになるところ～**

◇幡多とは

幡多とはどんなところか。幡多の土地柄や人柄はどこに根っこを持つのだろうか。

これまで幡多は、足摺岬・四万十川という２つの大きな看板を掲げてきました。足摺岬から眺める海、最後の清流と言われている四万十川。幡多地域はかつて「波多」と呼ばれていたほど海に深い関わりがあります。川も最終的には海に合流し、山からの豊かな水は海の生物を育んでいます。

幡多の個性を考える場合、やはり、海と川、そしてそれぞれのつながりの中で考えてみたいと思います。

◇黒潮の海

幡多の海は黒潮の流れの中にあります。黒潮は、世界で最も大きな海、太平洋の西端を流れています。東南アジアから流れている黒潮は、最初に足摺岬にぶつかり、幡多の沿岸部全体を洗いながら、日本の北東に流れます。黒潮は東南アジアから日本を結ぶ海の大きな道であり、その玄関口が足摺岬なのです。

幡多の沿岸部にある縄文遺跡が物語るように、おそらく先人の多くは、黒潮の道に乗って幡多へやって来たのかもしれません。

◇黒潮が育んだ川

一方、山々から流れ来る川は、海へと注ぎ黒潮にぶつかります。川は、地域の山と海をつなぎ、命の源である水を運び、縄文時代より民の暮らしを育んできました。米や木材・炭など山里の幸は川の民・海の民に、鮎やウナギ、川エビなど川の幸は山里の民・海の民に、そして、塩や海産物などの海の幸は川に沿って川の民・山里の民に運び上げてきました。

その川の水も黒潮からくる温暖で多湿な気候が育んだものだとすると、幡多の自然や暮らしは、黒潮がつくったものなのかもしれません。

◇黒潮が育んだあたたかな人柄

また、幡多は古くから遍路文化、もてなしの文化が色濃く残る地でもあります。幡多には、土佐清水市、宿毛市と札所があり、土佐清水市から宿毛市に至る途中にある大月町には番外札所があります。その大月町には、お遍路さんに宿や食事を無償で提供した「善根宿」の記録が今も残っています。もてなしを受けたお遍路さんは、お礼の気持ちをお札に込め、名前などを記して納めています。一万枚を超える数のお札の記録をみると、この地がいかにあたたかく来訪者を迎えていたかがわかります。

**黒潮の温暖な気候から育まれた自然や自然の恵み、人々の暮らし、あたたかな人のもてなしによって様々な感動に出会い、感受性が豊かになる。**

**ここ幡多地域は、黒潮文化に出会うまちなのです。**

質問②　幡多の観光とは？　幡多観光のイメージ）

## 地域の自然・暮らし・人のあたたかさに出会う「生活の旅」

**◇心が癒される自然**

**幡多地域は、これまで太平洋を一望できる足摺岬や断崖絶壁がつづく大堂海岸、川の原風景が残っている四万十川など、黒潮が育んだ自然に、ここを訪れた多くの人は心を癒されてきました。これらの資源はこの地域特有の風景として、今後も人を癒しつづけると思います。**

**◇豊富な自然体験メニュー**

**幡多観光を考えるときに、近年の特徴として、楽しみながら自然を身近に感じる自然体験型観光のニーズが高まってきています。ここ幡多地域は、国内でも有数の自然体験型の観光地であり、ホエールウォッチングやカヌー、スキューバダイビング、サーフィン、キャンプなど体験メニューが豊富にそろっています。**

**◇一番の観光資源は「人」**

**このように、幡多地域は、足摺岬・四万十川に代表される豊かな自然環境をもとに、自然体験型観光により、修学旅行生など多くの人を受け入れてきました。これからの幡多観光を考えたときに、豊かな自然環境を守りつつ、自然体験メニューをさらに充実させていく必要がありますが、それ以外に、これからは、自然だけでなく、本当の意味で地域に根付いた観光スタイルを確立させる必要があります。**

**そのヒントが、来訪者からの手紙の中に隠されています。佐賀町のカツオのタタキづくりを体験した人から「ひさしぶりに人のあたたかさにふれました」との手紙が届きました。地元の人が言うには、「幡多の人は、子どもだろうと大人だろうと関係なく、昔から知り合いのように気さくに話ができるからじゃないか」ということですが、都会から来た人にとって、地元の人とのさりげない会話が、一番のもてなしであったと思います。**

**幡多の一番の観光資源は「人」なのです。**

◇幡多観光とは「地域の自然・暮らし・人のあたたかさに出会う旅」

民俗学によると、旅の語源は「他火」にあると言われています。では他火とはなにかというと、他の地域にともる火のことで、火はその地域に暮らす人の良さやあたたかさを意味しています。観光の語源がその土地の光を観るということであれば、幡多地域の観光は、地域の人のあたたかさにふれる旅ではないか。旅は他火。幡多観光とは、黒潮が育む自然と今なお残っている昔の暮らしや人のあたたかさに出会う旅です。

質問③　これからの幡多観光とは？　地域へのメッセージ）

これからの幡多観光は、従来の観光事業者以外に、地域の住民の方にも積極的に観光に関わってもらいましょう。住民の方が自らの生きがいや生活の楽しみをつくりながら、その結果、地域ぐるみで来訪者を持てなしていく土壌をつくっていきましょう。

そして、今ある自然体験型の観光メニュー以外に、田舎体験など地域や人に根付いた体験メニューを用意し、子どもたち（修学旅行生）を中心に、人が生きるうえで大切な考えや智恵、技術などを伝えていきましょう。そうすることで、お互いの人間性を高め合う（育てる）幡多独自の観光スタイルが確立されることでしょう。

**これからの幡多観光：人に出会い・人が育つ旅**

## 【人に出会う】地元の人やそこでの暮らしに出会える旅

（地域や人に根付いた体験メニューがある）

地元のおんちゃん・おばちゃんの案内（ガイド）、お年寄りの昔話、○○名人からの手ほどき、農業や漁業の暮らし体験、地元料理の作り方講座、農家民宿など

## 【人が育つ】幡多の自然や文化によって人間性が育つ旅

（人間性が育つ上で重要な体験ができる）

遊び：時間のたつのも忘れて遊ぶ体験

学び：何かを発見する、何かを成し遂げるなどの達成感を得る体験

感動：笑ったり、怖がったり、感動したり、心と体が一体となった体験

## （２）幡多観光を進める上で大切にしたい考え方

幡多地域では、これから、観光の取組みを進める際に、以下の考え方を大切にしていきます。

### 自然を大切にする

今ある自然を大事に残していくだけでなく、山、川、海すべて今ある自然をより豊かにして返していきましょう。また、自然と人の共生を心がけ、なるべく自然に負荷をかけないようにしていきましょう。

### 自分たちができることからはじめる

これからは、行政がしてくれるといった意識を捨て、自分たちができることからはじめていきましょう。まずは自分がやるしかないという意識で事を起こすことが大切です。地道に実績を積むことで、まわりや社会が認めてくれるようになると思います。

### 地域にあるものの価値を知り、地域を好きになる

地域の人が当たり前と思っていることは、実は当たり前ではありません。今一度、地域の人にとって当たり前なものの価値を認識し、そのことを外の人に伝えていきましょう。最終的には、地域の人が地域を好きになりましょう。

### 地域にあるものを活かす

二番煎じでも三番煎じでもいい、また、一番でなくてもいいので、地域にあるものは自信を持って出していきましょう。その際、そこにある当たり前のものをどう組み合わせ演出するか、調理するか、やり方・食べさせ

方が重要です。

また、地域の人の笑顔が一番の観光資源だということを認識し、地域の人が地域の言葉で話すように心がけましょう。

## 人と人とのつながりを大切にする

地域の人がいきいき生活していることが重要です。主体的な人の活動が点となり、その点が増えていき、点が線となり面となります。お互いに頑張っている人がつながることで、人の紹介から活動の輪が広がります。最終的には、一人の取組みでなく、みんなで盛り上げながら取り組んでいく。そうした人のつながりによって地域に感動が生まれます。

## 外からの視点や考え方をうまく取り入れる

地域の人も外の人とふれあうことで、喜びや気づきが出てきます。外からの人の目も大切。外から来た考え方をうまく地域に取り入れ発展していきましょう。

検討委員会メンバーによるタタキづくり体験

## （３）幡多地域の将来目標（地域で達成したい姿）

本ビジョンでは、５年間を取組みの期間として設定し、以下の目標（達成したい姿）に近づけていく努力をしていきます。

### 目標１　自然環境の保全と活用

豊かな山、川、海の自然を次の世代にいい状態にして渡すために、自然環境の保全・再生活動を行います。また、観光で自然環境を利用する際は、環境に負荷を与えない形での取組みを行います。目標とする自然環境の状態としては、環境が悪化する前（昭和 30 年代ごろ）の状態を目指します。

### 目標２　通年楽しめる観光メニューづくり

春・夏・秋・冬と通年、幡多地域で楽しめるように、四季折々の風景や行事、地域資源を活かした観光メニューづくりを進めていきます。

### 目標３　人に出会う場の創出と人材の育成

農家民宿などで受け入れる体制を整備し、地元の自然や人の暮らしを身近に感じてもらいます。また、地域の文化や技術などを来訪者に紹介するガイドを育成し、同時に次世代へ文化や技術を伝えていきます。

### 目標４　幡多広域観光ネットワークづくり

分野やテーマによっていくつかの広域観光コース（短期・長期滞在）を設定し、人と地域の横のつながりによって様々な観光ニーズに対応できるネットワークづくりを進めます。

# ３．人に出会い・人が育つ幡多観光アクションプラン

私たち幡多住民は、人に出会い・人が育つ幡多観光を基本理念とし、地域の将来目標を達成するために、今後５年間の中で、４つの基本方向に基づいて取り組んでいきます。

なお、このアクションプランは、基本的に地域住民や民間団体が主体となって取り組むもので、県や市町村など行政機関は、地域の主体的な取組みを支援していきます。

## （１）自然環境の保全と活用

幡多地域の多くの観光資源は、山・川・海に関連したものが多く、その魅力を持続していくためには、自然環境の保全や自然に負荷を与えない観光地づくりが求められます。地域の主力商品である四万十川は、最後の清流と言われ全国的に認知度が高くなっていますが、生活様式の変化や来訪者の増加等により、人の活動と自然との間で様々な問題が生じてきています。

今後もこれら地域の自然環境を観光の柱に据えていくため、生態系や景観を重視した自然環境の保全の取組みと環境に負荷を与えない観光づくりへの取組みを進めていきます。

＜取組みのポイント（例）＞

①動物の棲める自然環境づくり

◆道路に、自然と共生していることを知らせるサイン（看板）を設置し、自然の豊かさをアピールするとともにドライバーに対しては動物の飛び出しなどについて注意を呼びかける。

◆山の環境が悪化し、動物の食べ物がなくなっていることから、外部からのボランティアを受け入れながら間伐など山の手入れを行い、そこに落

**葉樹や実のなる木を植えていく。**

②自然にあるものの活用

**◆浜には色んな漂流物が流れ着いている。浜にどんな漂流物が流れ着いているか、区間を決めて調査（環境学習）を行う。参加者は環境を学習し、流木やビーチグラスなど、すてきな宝物にめぐりあうことができるし、浜もきれいになる。**

**◆幡多は釣りのメッカ。グレ釣りや石鯛釣りなど釣り客の誘致や釣り大会を積極的に行う。**

**◆小舟で行く鹿島の自然観察ツアーを開催する。夜は月夜（月の道）が美しい場所を案内する。**

③岸ツツジ植樹カヌーツーリング

**◆冬場、カヌーに乗りながら岸ツツジを植えていく。四万十川を大切にしたい人に呼びかけ、環境づくりと観光を結びつける。植樹の際は、ツツジが育ちやすいように日当たりや周辺の山のことも考えていく。**

④モミジまつり

**◆黒尊はブナ林など自然林が残っている。紅葉の時期などに自然環境への配慮も含めて案内や説明を行いながら、景観や自然の恵み（料理）を味わってもらう。**

⑤地元の支流や小さな川の活用（自然体験学習）

**◆冬に炭焼き体験と川エビとりをしてもらう。できた炭で取ったエビを焼いて食べてもらう。**

**◆夏は川流れを利用したタイヤのチューブ下りを行う。**

## （２）通年楽しめる観光メニューづくり

**四季を通じて幡多地域で楽しめるように、観光客が閑散としている冬季対策と、観光資源の魅力を通年的に確保できる新たな観光資源の発掘とメニューづくりを進めていきます。**

**＜取組みのポイント（例）＞**

①黒潮の文化を活用したメニューづくり

**◆地域の自然や植生、文化財、漂流物など黒潮の流れや気候に深く関わるものを整理し紹介する。**

**◆黒潮の流れや渦になっている場所、川の水と黒潮が交わる場所などで実際に黒潮を見てもらう。案内は観光ガイドボランティアを中心として行う。**

②遍路道ウォーキング

**◆土佐清水市から大月町柏島まで黒潮を見ながら歩く遍路道ウォーキングイベントを行う。**

**◆遍路宿の風習を紹介する。また、お遍路さんが残したお札の展示も行う。**

③四季の写真

**◆宿毛市の冬のダルマ夕日の写真をメインに、四季を通じて幡多地域内の魅力を写真に残し、情報発信につなげていく。また、地域内外から幡多の四季の写真を募集して、写真愛好家等を地域に呼び込む。**

④カツオ船団の出港風景の活用

**◆佐賀町の１月末から２月上旬にあるカツオ船団の出港にあわせてイベン**

**トを行う。イベントでは、出港風景の見物や出港時の風習の説明、広域市町村の物産販売等を行う。**

⑤四万十川のサイクリング･ウォーキング

**◆自転車道を活用し、河川敷のサイクリングを楽しんでもらう。**

**◆３月の菜の花ウォーキング以外に、季節ごとにウォーキングイベントを行う。**

**◆イベントとは別に、沈下橋を歩いて説明するウォーキングコースを設定する。**

**◆サイクリング・ウォーキングに対応できるサインやマップづくり、小グループや家族を対象に川沿いを案内する。**

⑥グリーン･ツーリズムの推進

**◆山、川、海の案内、草履づくり、地区の祭りの手伝い、昔話、農業・漁業体験など地元の人と一緒にできる田舎体験メニューを用意する。**

**◆農業や漁業に携わる人と観光業者等とが連携を図り、地域ぐるみの受入れ体制を整える。**

⑦地域の産物や食の提供

**◆地域で採れたもの、作ったものを、いつでも誰でも持ち込める直販店「みんなの店」をつくる。**

**◆地元の名物を食べられる所をパンフレット等で紹介する。**

⑧施設観光との連携（雨天対策）

**◆屋外体験観光と施設観光との連携を強め、屋外体験で雨天の時などに施設観光に観光客を受け入れてもらう。**

## （３）人に出会う場の創出と人材の育成

近年の観光客のニーズは、従来からの観る・買うといった観光地における物や場所とのつながりに加え、地域での様々な体験と、人と人との語らいなど地域の人との心のふれあいを求めるようになっています。これからの観光地づくりにおいて、観光客に対して「人」と「人」のふれあいの機会をどれだけ創出することができるか、ということは極めて大切な意味を持ちます。また、人は観光素材としてだけでなく、観光を推進する原動力として重要な存在となります。

そのため、今後、地域の人との出会いの場を創出することと同時に、人を育てる具体的なプログラムを設定し、着実に、観光に関わる人材育成とその組織化を進めます。

＜取組みのポイント（例）＞

①農村 ･漁村民宿、簡易宿泊所の整備

◆自炊ができたり、地域の人に料理を作ってもらったりできる宿泊所を用意し、地域と気軽に交流できるようにする。

◆地域の空き家を簡易宿泊所や農家民宿用に使用する。

②観光ガイドの育成

◆地域の人が地域の良さを再確認することを目的に、地域資源を題材にした学習会を実施する（地域学習）。

◆地域学習の受講生の中から、観光ガイドボランティアの受講生を募集し、必要に応じて観光ガイドボランティアの研修会を実施する。ガイドの範囲は市町村内だけでなく、広域のガイドができる人材も育成する。

◆各分野の専門性を高めたプロのガイドを育成する。

③地元の生活名人の登録

**◆お客さんをもてなすことのできる地域の名人を増やすため、得意分野を持つ人でもてなしに関わってくれる人を「地元の生活名人」として名簿に登録し、体験観光の場の創出ともてなしの質を高めていく。**

**◆名人の案内や体験指導の際には、地元の若い人も一緒に参加し、名人の知識や技術を学んでいく。**

## （４）幡多観光ネットワークづくり

**これからの幡多観光は、市町村の境界の意識を取り払い、広域的視点から観光商品を組み合わせ、それを情報発信し誘客のできる体制をつくっていく必要があります。**

**幡多地域の観光をネットワークでつないでまとめていくことは、複数の観光メニューを組み合わせることができ、幡多地域全体の個性や魅力が高まります。また、観光客にとっても周遊性・利便性が増し、観光としての満足度が増すことにつながります。**

**このため、まずは地域に住む人が、お互いに地域を訪れ、地域の中にある素晴らしい観光資源など地域の良さを共有した上で、幡多広域が地域の取りまとめ役となり、地元住民や関係団体との調整、情報発信、観光客の誘致等の活動を行います。**

**＜取組みのポイント（例）＞**

①観光ガイドボランティアの相互交流 ･広域的活用

**◆各市町村の観光ガイドボランティアが相互に交流を図ることを目的とした研修会を開催する。**

**◆必要に応じて、他の市町村の観光ガイドボランティアの協力要請ができるように、広域的な活動ができる観光ガイドボランティアの登録を行う。**

②ホームページの広域ネットワークの構築

**◆各市町村の観光協会や民間の観光事業者、地元商店等のホームページとリンクを貼り、利用者が情報を入手しやすいように整理する。**

③山 ･川 ･海の総合的な体験学習プログラムづくり

**◆山～川～海が体系的･総合的に理解できる体験学習プログラムをつくる。例)山から川に流れる水が海のプランクトンを育み鯨の住処となる学習。**

**◆山、川、海の食べ物を組み合わせた料理の提供や物産販売などを行う。例）塩や魚介類など海の幸と山の幸の組み合わせ（幡多山海鍋）**

**◆山の名人、川の名人、海の名人を認定し、それぞれの人のつながり（ネットワーク）をつくる。**

④幡多地域の住民同士の交流促進

**◆住民を対象に幡多地域の良さを体感するツアーを企画し、生の感想をホームページなどで掲載し意識を啓発する。**

**◆観光地づくりに関心のある人が集まって幡多観光の魅力を高めるために、連携・協力できることを話し合う。**

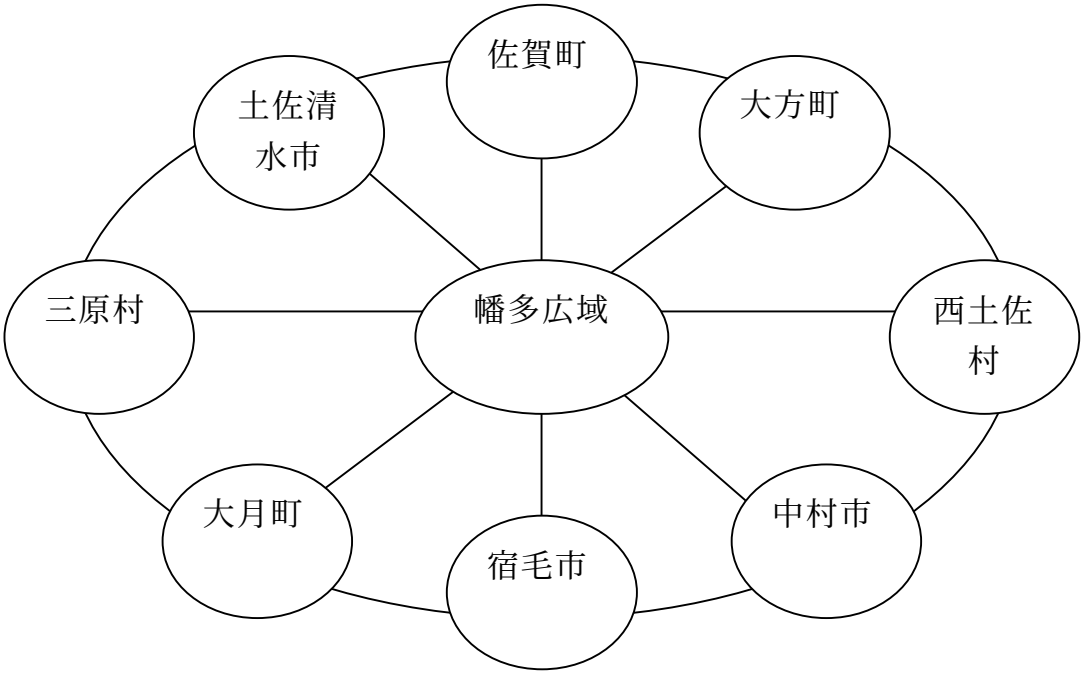
⑥地元窓口との連携 ･ネットワークづくり

**◆地域（各市町村単位）に受入れ窓口を設置し、住民（名人）との協力・連携関係を築き、地域ぐるみの受入れ体制を整える。**

**◆地域の窓口は、来訪者と地元の人との間に入り、事前の打ち合わせや当日の役割分担を調整する。また、窓口は参加者から料金を徴収し、地域に利益を還元していく。**

**◆地域の窓口と幡多広域の窓口との連携を強化し、一体的な情報発信や誘客活動を展開していく。**

＜幡多観光ネットワークのイメージ＞



# 資料編：ビジョンの策定経過

［第１回検討委員会］
日時：平成16年６月17日（木）　午後１時30分～４時
場所：高知県中村土木事務所３Ｆ会議室
検討テーマ：地域の資源や現在の取組みを知る

［第２回検討委員会（現地視察）］
日時：平成16年７月５日（月）　午前９時～午後５時20分
視察先：梼原町「いちょうの樹」
　　昼食を取りながら、代表の上田知子さんからお話しを伺う。
　　その後、こんにゃく作り体験を行う。
検討テーマ：他の地域の取組みに学ぶ

［第３回検討委員会］
日時：平成16年10月６日（水）　午後１時30分～４時
場所：高知県宿毛土木事務所２Ｆ会議室
検討テーマ：幡多観光の課題：整備すべき点や解決すべきことなど課題を出す。

［第４回検討委員会］
日時：平成16年10月28日（木）　午前11時～３時
場所：カツオふれあいセンター黒潮一番館（佐賀町）
　　カツオのタタキづくり体験を行い、昼食後に話合いを行う。
検討テーマ
・幡多観光の課題（追加検討）
・幡多観光の基本方針（大切にしたい考えや共通の目標を立てる）

［第５回検討委員会］
日時：平成16年１２月７日（水）　午後１時30分～４時
場所：海の駅あしずり１Ｆ会議室（土佐清水市）
検討テーマ：高知県幡多地域観光ビジョン（案）の内容について

# 幡多地域観光ビジョン検討委員会

幡多地域観光ビジョン検討委員

| 市町村名 | 氏　　名 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 大月町 | 岡　浩之 | ｺｰﾗﾙ・ﾌﾙｰﾂ大月農場 |
| 佐賀町 | 吉田　かずみ | ソルトビー代表 |
| 〃 | 明神　多紀子 | 黒潮ｶﾂｵ体験隊代表 |
| 宿毛市 | 金沢　あけみ | 旅館　金澤 |
| 土佐清水市 | 久保　卓也 | 土佐清水市JC理事長 |
| 〃 | 竹葉　秀三 | 竜串観光汽船代表 |
| 〃 | 宮崎　茂 | 土佐清水市観光ボランティア会会長 |
| 中村市 | 岡田　光紀 | 釣り具店経営 |
| 〃 | 杉村　光俊 | (社)トンボと自然を考える会代表 |
| 〃 | 伊与田　真哉 | 大川筋地域振興組合事務局長 |
| 西土佐村 | 横山　宗美 | 民宿にしとさ |
| 〃 | 平野　三智 | 四万十楽舎 |
| 三原村 | 岩崎　和夫 | 岩崎製茶代表 |

市町村担当者

| 市町村名 | 担当部署 |
|---|---|
| 中村市 | 商工観光課 |
| 宿毛市 | 商工観光課 |
| 土佐清水市 | 観光商工課 |
| 佐賀町 | 海洋農林課 |
| 大方町 | まちづくり課 |
| 大月町 | 水産商工振興課 |
| 西土佐村 | 産業課 |
| 三原村 | 産業建設課 |
| 幡多広域観光推進連絡協議会 | 事務局 |

高知県（事務局）

| 担当部署 |
|---|
| 高知県商工労働部観光振興課 |